

立教大学 社会デザイン研究所 主催

劇場法対応、ホール設備デジタル化、建替・大規模改修



劇場法の要請に応える、公共劇場スタッフのための社会デザイン力養成講座  
| 地域コミュニティ、共生社会、絆を生み出す場所と事業のマネジメントを学ぶ |

# 公共ホールの つくり方と 動かかし方を学ぶ

冬期集中講座  
追加募集

「公共ホールのつくり方と動かかし方を学ぶ」冬期集中講座では、福島県いわき市の「いわき芸術文化交流館アリオス」を題材に、実践的なフィールドワークやケーススタディ・ワークショップを行います。ホールとその立地する地域、その文化的課題を社会デザインの視点に立って考える機会を持ち、公共ホールの運営やハードマネジメントへの見識を深め、実際の劇場づくりに行かせるスキルを身に付けます。

社会デザインのアカデミックな研究と実践ノウハウの蓄積をもつ立教大学社会デザイン研究所が、公共劇場の先駆的な実務家、建築関係者と共につくる集中講座です。みなさまのご参加をお待ちしております。

平成26年度 文化庁  
大学を活用した文化芸術推進事業



日程 : 2015年2月5日(木)~8日(日)  
会場 : いわき芸術文化交流館アリオス(福島県いわき市)  
主催 : 立教大学社会デザイン研究所  
協力 : NPO法人劇場創造ネットワーク/座・高円寺  
いわき芸術文化交流館アリオス  
あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)  
久留米シティプラザ ※平成28年開館予定  
問合せ : 立教大学社会デザイン研究所(川口、高地)  
Mail◎hall-koza@rikkyo.ac.jp  
Tel◎03-3985-4893 / Fax◎03-3985-4725

募集定員 : 40名 ※定員に達し次第、募集を締め切ります  
受講対象者 : これからの公共ホールに関心をもつ方(ホール制作者、舞台芸術実演家、自治体職員、建築家、コンストラクション・マネジメント等建築関係者、それぞれの志望学生等)  
受講料 : 冬期集中講座(全12講座)18,000円  
※講座参加にかかる移動費・宿泊費は参加者でご負担ください  
※学生のみなさんを対象とした研修制度(参加費用の一部を補助)を設けております。詳細はお問合せください  
申込方法 : お名前・所属・ご連絡先を明記の上、メール又はファックスにてお申し込みください



中村 陽一

2012年の劇場法施行により、いわゆる公共ホールは、「人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点」、「地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能」を持つ場として、「必要な人材の養成を行うこと」、「地域社会の絆の維持及び強化を図るとともに、共生社会の実現に資するための事業を行うこと」が積極的に求められることとなりました。図書館や博物館同様、専門性を持ったスタッフが事業を行い、地域文化を担う存在と規定されたわけです。公共劇場が、地域の社会デザイン、コミュニティデザイン

の拠点をめざす時代の幕開けとっていいと思います。

そもそもdesignとは、製品やサービスの単なる設計やきれいな絵を描くことに留まるものではありません。それは、社会の仕掛けや仕組みを大胆に組み替えていくことであり、私たちはそれを社会デザインと呼んできました。本講座で、そうした時代と社会の変化に応え得る魅力ある人「財」をめざしてみませんか？



佐藤 信

日本の劇場は、大きく3つの世代を経してきました。第1世代は所謂多目的ホールで、地方の文化会館です。基本的に集会所で、劇場機能は付加的なものでした。第2世代は専用ホールの時代。多目的から単目的になり、演劇専用の劇場もつくられました。第3世代は劇場でものをつくる時代で、プロが個性的な創造活動を行うために、競って高機能な劇場になっています。現在は公共劇場でも第3世代が主流になりつつありますが、市民参加のためのハードウェアについてはそれほど突っ込んだ考え方が熟してはいません。

プロと市民、どちらも満足して使える建物であることが、第4世代の劇場には求められています。そのための取り組みが、今回出来ればと思っています。

プロと市民、どちらも満足して使える建物であることが、第4世代の劇場には求められています。そのための取り組みが、今回出来ればと思っています。

## 講座日程・内容

日時	会場	講座内容
2015年 2月5日(木)	いわきアリオス 中リハーサル室	<b>【社会デザイン力養成ワークショップ】</b> 社会デザインの視点から、公共ホールのあり方を考えます。 いわきアリオスにてフィールドワークを行い、いわき市の文化やコミュニティ課題を探ります。
2月6日(金)		<b>【劇場ハードマネジメント力養成ワークショップ】</b> 同劇場の建築プロジェクトを題材にして、ケーススタディ・ワークショップをおこないます。 今後の改修を想定して、ハードリニューアル案をまとめます。
2月7日(土)		
2月8日(日)	いわきアリオス 小劇場	<b>【演劇ワークショップ&amp;市民ディスカッション】</b> フィールドワーク、ケーススタディ・ワークショップでの発見をまとめ 「劇場づくり」をテーマに発表をします。

## 講師 ※五十音順 / 講師は変更になる可能性があります。

- 石川 治江 (立教大学特任教授)
- 大石 時雄 (いわき芸術文化交流館アリオス支配人)
- 斎藤 義 (建築家、環境デザイン研究所所長、いわきアリオス施設設備総合監修)
- 佐藤 信 (杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」芸術監督)

- 高宮 知数 (立教大学社会デザイン研究所研究員)
- 中村 陽一 (立教大学教授、社会デザイン研究所所長)
- 西田 司 (建築家、東北大学非常勤講師)
- 山崎 哲史 (演出家、表現教育ファシリテーター)

## 夏期集中講座参加者より

●各講座、非常に喚起される内容でした。学問的な視点、制作現場的な視点、企業や助成団体の視点という多様な視点から公共ホールについて考える時間になりました。

(独立行政法人日本芸術振興会 国立劇場)

●本市の市民会館の建替えを担当しています。施設を建てるのも「人」、まちを形成するのも「人」、施設のあり方を考えるのも「人」、全ての場面に介在する「人」と「人」をつなげる施設を建設できればいいなと感じました。文化施設を建設するということはミッションとしてありますが、文化施設を建設することを通じて、まち、人、施設をつなげる役割を行政に求められていると思いました。

(大阪府高槻市 文化スポーツ振興課)

●4日間の集中講座を通して、今までとは異なる視点から劇場について学ぶことができました。これまでは、演劇という枠組みの中だけで、劇場について考えがちでしたが、社会についても考えることが必要不可欠だと強く思いました。

(日本大学 芸術学部演劇学科)

●劇場の建物のサイクルは50年ほどで、建物の改変などに関わる人がその都度ではじめて経験するために、これまで積み上げてきた経験が活かされていないことが問題であると感じました。現在、大学で建築学を学んでいるため、どうしても建物のハードな側面だけ目が行きがちであったのですが、これからの「公共ホール」を設計する際、ソフト面とハード面の関係をどう建築として表現するかということを考えるよいきっかけになりました。

(早稲田大学 創造理工学部建築学科)

●今まで、劇場のあり方について、どういう劇場を目指して、何がしたいのかを劇場に勤務したり、あらゆる形で舞台芸術に関わりながら考えてきましたが、4日間の集中講座を通して、劇場のつくり方(設計段階から、完成後の運営まで)や芸術監督のあり方などについてなるほどと思えることが沢山あり、今後の方向性について新たな閃きがありそうな予感がしています。事務方向への講座において、劇場のハード面について突っ込んだ内容を伺える講座はなかったのが、新たな劇場との関わり方も知ることができ、期間全体を通してとても充実していました。

(フリー・舞台制作者)